

# 健康 第一

2012 第23号



当院の基本理念

## 地域社会との融和

基本方針

1. 地域社会に特色ある医療を担う。  
(女性医療・がん医療・腎臓病・生活習慣病に専門性を発揮する)
2. 利用者が納得する医療を提供する。
3. 心の通う医療を目指す。





# マンモグラフィ検診施設画像認定施設（ソフトコピー診断）の認定を受けました

NPO法人マンモグラフィ検診精度管理中央委員会より2012年10月1日付で「マンモグラフィ検診施設画像認定施設（ソフトコピー診断）」の認定を受けました。

「マンモグラフィ検診施設画像認定施設（ソフトコピー診断）」の認定を受けている施設は2012年10月現在、全国で8施設、九州では当院のみです。

※ソフトコピー：モニター診断



## ▶▶ マンモグラフィの読影

当院では、年間6,000件を超える検診マンモグラフィの読影を行っています。読影はマンモグラフィ読影認定のA判定を持つ医師が必ずダブルチェックを行っていますが、より見落としのない診断を行うためにCAD（コンピュータ乳がん検出支援システム）を導入しています。CADとは、画像モニターに表示したマンモグラフィに対して、腫瘍や石灰化などの疑いがある領域を検出し、読影する医師がより確実な診断を行えるようコンピュータで支援するシステムです。

当院では平成23年2月にこのCADシステムを導入し、より精度の高い乳がんの診断に努めています。



高崎医師によるマンモグラフィ読影



## 第50回日本社会保険医学会総会

2012年11月8日～9日  
於 石川県立音楽堂・ホテル日航金沢

2012年11月8日～9日、石川県立音楽堂及びホテル日航金沢に於いて『第50回日本社会保険医学会総会』が開催されました。当院からは、以下6名の演者がそれぞれのテーマについて発表を行いました。

- 「乳がん術後のリハビリテーション指導～自作DVDを用いて～」  
理学診療部 吉弘 圭伊、松尾 健一、田中 真紀、磯邊 真
- 「当院におけるマンモグラフィ装置の品質管理方法について - 共同購入機器を利用して -」  
放射線部 秋葉 ナオミ、坂田 滋、松尾 義幸、中原 博子  
山口 裕司、松藤 義治、山口 薫、野田 幸代  
松尾 美穂、大村 智美、本田 知規
- 「外来化学療法を受ける乳がん患者の夜間電話対応マニュアルを導入して～導入後の看護師の不安の軽減～」  
看護局 有働 佳代、大場 玉記、北原 美代子、大坪 清美  
時里 玉栄
- 「3交代勤務の睡眠実態調査」  
看護局 福野 理恵
- 「臨地実習に関わる看護師の負担要素とその負担軽減に向けて」  
看護局 佐藤 詩織
- 「ライセンスフリーでコスト削減」  
事務局 丸山 耕作、松隈 則人、鹿毛 敬子、楠 智幸



理学診療部  
吉弘 圭伊



放射線部  
秋葉 ナオミ



JR金沢駅 鼓門（つづみもん）



## 『麻酔科 / ペインクリニック内科』



当院では、常勤の麻酔科専門医 2 名と非常勤の麻酔科医 4 名とで麻酔を担当しており、日本麻酔科学会の認定病院となっています。平成 19 年以降の年間手術症例数はほぼ 1,200 件、このうち全身麻酔（全麻）や硬膜外麻酔を併用した全身麻酔（全麻 + 硬麻）、硬膜外麻酔 + 脊椎麻酔（硬脊麻）、静脈麻酔（静麻）といった麻酔科管理症例は 1,000 件に達しています。平成 23 年の年間手術症例数は 1,305 件、麻酔科管理症例は 1,092 件でした。



乳腺外科の手術は全手術件数のほぼ半数を占め、毎週 8～10 件の手術が全身麻酔下に行われています。ほとんど全例に無挿管マスク麻酔を行っており、喉に刺激となる気管挿管チューブやラリゲルマスクの使用は 1% 以下です。

安全で快適に手術を受けていただくため、また術後が辛くなかったと言ってもらえるような麻酔や術前、術後を含めた周術期管理をめざしています。私たちは、“患者さんにとって顔の見える麻酔科医になる”ことが目標です。

ペインクリニック内科では様々な痛みでお悩みの方に対し、神経ブロックや薬物、あるいはリハビリ機器などを利用して痛みの治療を行っています。神経ブロックとは、痛みを起している神経のまわりに局所麻酔薬を注射して痛みを取る治療法です。痛みがあるとその部位の筋肉が緊張し、血管は収縮して血液の流れが悪くなり、それが痛みをますます強める「痛みの悪循環」を起します。神経ブロックは、痛みを取り除くとともに血液の循環を改善して痛みの悪循環を断ち切ります。このため、薬の効果がなくなった後も痛みが和らぐようになります。

当院の新患受診者数は平成 20 年～22 年までは年間 90 人台でしたが、平成 23 年は 135 人と増加、特に腰椎椎間板ヘルニアや腰部脊柱管狭窄症による腰痛や下肢の痛みでの受診が増えています。がんの再発で体の痛みや心の痛みが出ている方、あるいは化学療法に伴う副作用でお困りの方に対しては、症状を緩和するための治療を行っています。

当科では、一人ひとりの患者さんとの出会いを大切に、体と心の痛みを診る医療を心がけています。

### スタッフ紹介

#### 常勤医師



副院長 / 麻酔科部長  
すぎやま かずひで  
杉山 和英



麻酔科医長  
いしい ひでお  
石井 秀夫

#### 非常勤医師



名誉院長  
つだ ひであき  
津田 英照



久留米大学病院  
麻酔科教授  
ふくしげ てつし  
福重 哲志

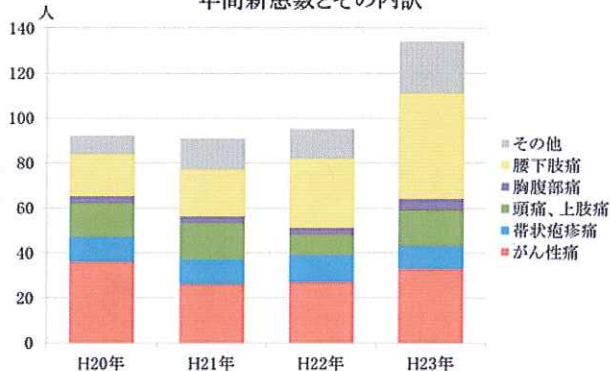


福岡山王病院  
麻酔科副部長  
のうつか ひろし  
能塚 博史



矢永クリニック  
理事長  
やなが かつ  
矢永 茄津

### 年間新患数とその内訳











# 部門紹介

# 栄養課

～心をこめて、皆様のお食事の準備をしています～

私ども栄養課は、管理栄養士3名、栄養士3名、調理師3名、調理補助などのスタッフ10名の総勢19名で働いております。

地域の皆様に喜ばれる病院を目指し、患者様への食事の提供には最も気を配っています。医師の指示に基づいた栄養管理により、適温適時を心がけて食事を提供しています。

主食の種類や量、副食の固さ、個人の疾患や状態による禁止食材やアレルギー等に注意し、各科のスタッフとの連携も図りながら、食事が進まない方などにも食べていただけるよう努めています。主な食材は久留米・鳥栖地区の業者から仕入れており、新鮮で良質なものを使用しています。

日々の食事に季節感を感じられるような旬の食材を取り入れ、メッセージカードを添えた行事食も提供しています。

また、食器洗浄員は皆様の手元に届く食器ひとつひとつを毎日、心をこめて丁寧に洗うことを心がけています。食材、食器、環境などの衛生・温度管理を実施し、安全で安心して食事をしていただけるようスタッフ全員で取り組んでいます。

管理栄養士による患者様への個別・集団栄養指導、栄養ケア計画、評価などへの取組も継続して積極的に行っています。

その他、糖尿病チームが企画・実施する「糖尿病教室」、「腎臓病教室」、「糖尿病性腎症教室」では、集団栄養指導として栄養についての講義を行い、試食会も行っています。

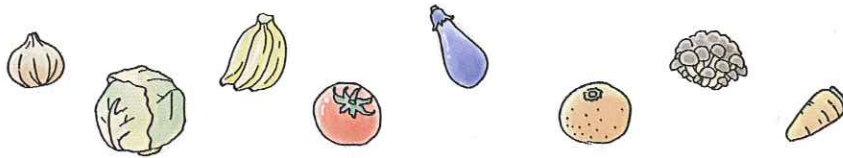
食事でお困りのことや気になることがある方は、お気軽にご相談ください。栄養相談はご予約制となっておりますので、ご希望の方は担当医または、担当看護師へご相談ください。



栄養課スタッフ



食器洗浄の様子



通常の入院食



胃切除後の患者様へのハーフ食



術後も無理なく食べられるよう、彩りや量、味などを工夫しています。



# 部門紹介

## 地域医療連携室



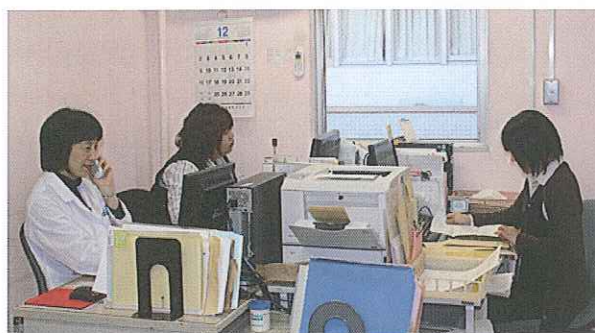
地域医療連携室では、患者様に良質で安心できる医療を適切に提供するため、地域の医療機関の先生方、保健・福祉担当の方と連携を図る窓口業務を行っております。また、病気により生じる様々な不安や問題への相談に応じ、問題解決への糸口をみつけるためのお手伝いをしています。

### 【業務内容】

- ◆地域医療連携について
  - ◇紹介元医療機関への報告・情報提供と管理
  - ◇地域医療機関・その他関係機関との連絡調整
  - ◇広報誌等の作成・発送 等
  
- ◆医療相談・退院調整について
  - ◇介護保険や福祉制度に関する説明・ご相談
  - ◇医療費等経済的問題についての相談
  - ◇退院後の相談（在宅医療・転院先・施設入所等）
  
- ◆入院カルテ管理業務
  - ◇過去の紙カルテや現在の電子カルテの保管・管理業務



医療相談



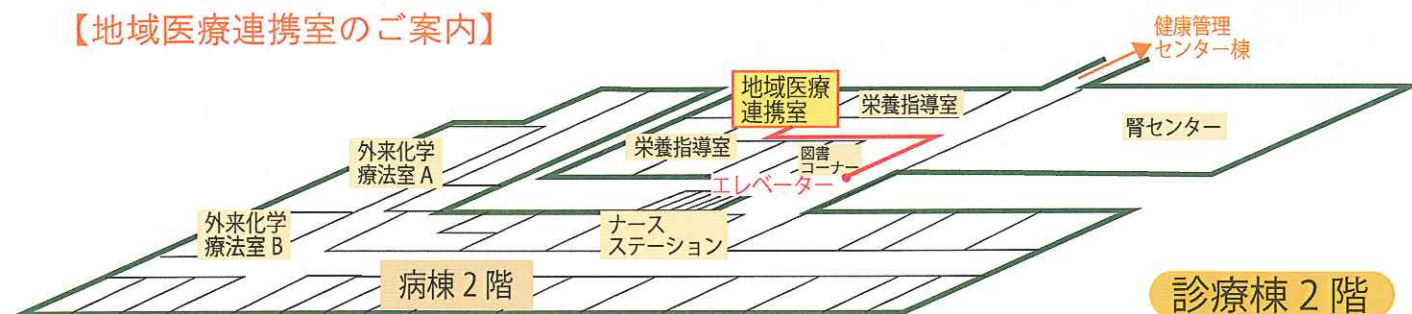
### 【スタッフ】

地域医療連携室室長 兼 医事課長	つる ひろし 鶴 洋
社会福祉士	とみおか きみこ 富岡 希巳子
診療情報管理士	よしとみ ふみ 吉富 二史
事務員	まき さとみ 榎 聡美

少数精鋭で頑張っています。地域医療連携室は、診療棟 2 階の目立たない場所にありますのでご利用の際はお気軽に病院スタッフにお尋ねください。



### 【地域医療連携室のご案内】







## 委員会紹介

# 『輸血療法委員会』

輸血療法委員会は、これまで比較的地味な活動に留まっていた。しかし今年度は一念発起し、以下の3つを目標に掲げ、4月以降毎月委員会を開催、アクティブな委員会に変貌しました。11月に念願の輸血管理料Ⅱを取得、病院収益に多少なりとも貢献できるようになりました。

術前T&S検査（血液型と不規則抗体検査）の実施が浸透しつつあり、手術中に血液のクロスを待ってスタッフが気をもむ事態が少なくなっています。輸血後感染症検査も開始できる体制が整いました。来年度は、当院も救急医療を本格的に始めることとなりますので、輸血の機会が相当増えることが予想されます。

委員会は適正で安全な輸血を実施できる環境整備をさらに推進していきます。



委員長 杉山 和英

委員長 杉山 和英

### 輸血療法委員会 3つの目標

- ①輸血管理料Ⅱの取得
- ②T&S（血液型と不規則抗体検査）の実施
- ③輸血後感染症検査の実施



## 委員会紹介

# 『リンクナース委員会』

リンクナース委員会では感染対策と褥瘡対策<sup>じよくそう</sup>の2つの活動を行っています。感染対策では、患者さんや医療従事者を様々な感染から守るため感染対策委員会を中心に、現場での感染防止活動を実践しています。活動内容は、①感染対策上の問題点抽出②院内ラウンド③感染防止教育の実施④院内感染サーベイランスの実施⑤感染に対する知識習得などで、職員の良きロールモデルとなるよう、日々努力しています。

褥瘡対策では、患者さんの褥瘡発生を未然に防いだり、褥瘡の早期治癒を目標に活動しています。活動内容は、①褥瘡発生率・有病率の調査②褥瘡対策委員会を中心とした褥瘡回診への参加③症例検討会・褥瘡予防教育の実施などで、積極的な取り組みを行っています。

リンクナース委員は、各セクションから1～2名ずつ選出されており、計13名の看護師で活動しています。

※褥瘡とは寝たきりの患者さんに発生することがあるいわゆる“床ずれ”のことです。

私たちがリンクナース委員です



### リンクナースとは？

リンクナースとは、感染対策や褥瘡対策などの委員会と病棟看護師をつなぐ（リンクさせる）役割を担う看護師のことで、看護師と他職種とをつなぐ役割も担っています。





# 12月～2月の主な院内スケジュール(予定)

※網かけの項目は患者様対象の教室です。詳細は、ホームページ「教室のご案内」をご参照ください。

日時	内容	講師
12月4日(火)	糖尿病性腎症教室第3回(試食会)	
12月4日(火)	感染管理大会	
12月5日(水)	骨盤底筋体操教室	
12月7日(金)	糖尿病教室(試食会)	
12月10日(月)～ 21日(金)	糖尿病教室 ※15日(土)・16日(日)は休み	
12月10日(月) 18時	12月 学術講演会「これからの救急医療体制」	久留米大学医学部救急医学講座 主任教授 坂本 照夫先生
12月17日(月) 18時	第17回医療安全大会	
12月17日(月) 17時30分	医局抄読会	
12月19日(水)	骨盤底筋体操教室	
12月20日(木)	乳がんこころとからだおしやれ教室	
12月26日(水)	乳がんこころとからだおしやれ教室	
12月26日(水) 17時30分	乳腺セミナー	
12月27日(木) 17時～19時	糖尿病セミナー	
12月29日～ 1月3日	年末年始休診	
1月4日(金)	糖尿病教室(試食会)	
1月7日(月)～ 18日(金)	糖尿病教室 ※12日(土)・13日(日)・14日(祝)は休み	
1月16日(水)	骨盤底筋体操教室	
1月16日(水) 17時45分	乳腺画像病理診断会(CPC)	
1月21日(月)	1月 学術講演会①	副院長(産婦人科) 畑瀬 哲郎医師
1月21日(月) 17時30分	医局抄読会	
1月23日(水) 17時30分	乳腺セミナー	
1月30日(水)	1月 学術講演会②「漢方について」	医療法人和漢堂福富医院 医院長 福富 稔明先生
1月31日(木)	糖尿病性腎症教室第1回(試食会)	
1月31日(木) 17時～19時	糖尿病セミナー	
2月1日(金)	糖尿病教室(試食会)	
2月4日(月)～ 15日(金)	糖尿病教室 ※9日(土)・10日(日)・11日(祝)は休み	
2月6日(水)	骨盤底筋体操教室	
2月18日(月)～ 21日(木)	腎臓病教室 第1回～第4回	
2月18日(月) 17時30分	医局抄読会	
2月20日(水)	骨盤底筋体操教室	
2月20日(水) 17時45分	乳腺画像病理診断会(CPC)	
2月27日(水) 17時30分	乳腺セミナー	
2月28日(木)	糖尿病性腎症教室第2回	
2月28日(木) 17時～19時	糖尿病セミナー	

編集後記

早いもので師走に入り、なんとなく慌ただしくなってきました。街中にはクリスマスのイルミネーションが光り輝き、きれいですね。  
2か月に1度の広報誌発行を目標に広報委員会は来年も頑張りますのでよろしくお願ひします！  
(広報委員会)



社会保険久留米第一病院

〒830-0013 福岡県久留米市檜原町21番地  
TEL: 0942-33-1211 FAX: 0942-32-0113

2012年12月発行 発行責任者: 病院長 田中 眞紀  
編集: 広報委員会